

9月16日(出) 実践報告第7室(722)

異文化コミュニケーションとして学ぶ〈真珠湾〉と〈原爆〉

Cross-Cultural Approach to Pearl Harbor and Atomic Bombing

鹿屋体育大学 外国語教育センター 宮下和子

1. 授業の目標

大学英語教育に携わって12年、シラバスの作成、講義初日学生の英語での自己紹介、アメリカ音楽の活用、答案や提出物の返却など継続的に実践してきた。1991年鹿屋体育大学に赴任後、ローカルな歴史や文化を背景に日米の異文化コミュニケーションを描いたテキスト *AN AMERICAN in KAGOSHIMA* を作成し、必修科目の「英語Ⅱ」で使用している。また、音楽の英詞に日本語の対訳を付けたり、最新の話題を扱った英字新聞記事やビデオや映画などの視聴覚教材も活用し、そのコメントをもとにクラス内の議論にも力を注いでいる。

「英語Ⅱ」の目標は、大学や鹿屋市、鹿児島市を舞台にアメリカ人Robと日本人学生との異文化交流を追体験することで、足元の文化や歴史を言語表現する意義や具体的な国際化行動を探ること。また、Robが学生との交流を深めながら日本や薩摩文化を理解し、自国を客観視していく過程を疑似体験することにより、異文化交流の意義を認識することである。

本稿では、最終的には、「Think globally, act locally」の神髄を習得することを目指す1994年度の「英語Ⅱ」(約45名2クラス担当)の授業展開について、教科書の登場人物で米国在住のRob Fieserと学生との異文化交流の実践報告と、1995年度に向けての展望を述べる。

2. 1994年度の授業展開

1994年度の授業展開は、大枠は1993年度を踏襲したが、翌年の終戦50年を意識したものとなり、広島アジア大会や真珠湾攻撃など補助教材選びにも反映された。その他の変化としては、Robとの「カセットテープ交信」が「文通」となったことである。学生たちに自由英作文の実用性を味わう機会を与え、海外文通の楽しさを体験させたかったからである。

二学期定期試験(11月)の問題の一つとして、学生にRob宛の英文の手紙を書かせたが、その内容はテキストだけでなく、授業中扱った英字新聞やビデオなどを反映し、多岐に渡る質問や意見で綴られていた。三学期初日、それぞれ添削したものを答案とともに返却し、一人ひとり一定書式の用紙に清書させ、80人分ほどを12月下旬、米国のRobに郵送した。

一月初旬、Robから届いた返信は、学生全員の名前の呼びかけで始まり、3ページに渡っていた。Robは学生の多彩な文面に対する返信内容を、1. Why do Americans have so many guns? Shouldn't there be restrictions on gun ownership? 2. Which aggressive act was more wrong, the Japanese attack on Pearl Harbor or the American atom bombing of Hiroshima and then Nagasaki? 3. What are your hobbies? 4. What is your dream? の4項目にまとめ、丁寧に答えていた。更に「質問されてはいないが」と断った上で、学生に良き体育指導者になってほしいという希望と体験的なアドバイスで手紙は結ばれていた。

中でも〈真珠湾〉と〈原爆〉に関しては、「難解な質問だがいずれも罪のない多数の犠牲者が出た。原爆が人種差別によるという批判には反対」とした上で、次のように述べている。

In any case, some American military leaders concluded that an invasion of Shikoku, Honshu, and Kyushu would cost many lives and take a long time to complete. One estimate which I read was 1 million dead American soldiers and 6 million dead Japanese, soldiers and civilians. If that is true, and the

9月16日(土) 実践報告第7室(722)

invasion had taken place, many of you wouldn't be reading this now. Your parents and/or grandparents would have been killed. So, you see, this is important history for you, even if history is usually a boring subject for you.

三学期初日、Robの返信を註釈付きで扱ったが、学生には語句内容共に難解な様子だった。読後のコメントには、「本当に返事が来て驚いた」「詳しく書いてあって嬉しい」「原爆や銃規制をアメリカ人も真面目に考えている」「自分の考えがイージーだった」「体育大に学ぶ意義を再認識した」「戦争や原爆に対する日米の視点と認識の相違」などが含まれていた。

3. 1994年度の異文化コミュニケーションの成果

三学期定期試験(2月)の問題の一つとして、Robの手紙に対する日本語の返事を書くように指示した。学生の中には再度米国の銃規制について意見を述べる者や、〈真珠湾〉対〈原爆〉の複雑さを認識したと告げる者など様々だったが、何より自分の質問に対する返事に強い喜びを表明する者が多いのが印象的だった。その他を一部、以下に紹介する。

返事に、一人ひとりの名前を書いてもらって嬉しかった。

ロブさんの意見を読んで、戦争について深く考えるようになった。

最後の、体育指導者になるためのアドバイスが嬉しかったし、役に立った。

自分たちの手紙の内容をきちんと理解した上で、返事を書いてくれたのが嬉しい。

多くの手紙を読むだけでも大変なのに、返事もアメリカの現況も踏まえて丁寧だ。

原爆投下については日米それぞれの考え方があることがよくわかった。

今回のたった一度の手紙のやりとりで、英語が日本語同様身近に思えるようになった。

英文の手紙を書くために辞書を引き、友人と話し、積極的に英語を学んだのが嬉しい。

体育専門の学生で英語は不得手だが、外国人と手紙のやりとりができたのが嬉しい。

更に、「『鹿児島のアメリカ人』から自分は何を学んだか、日本語で述べなさい」という問いかけにも、学生たちは次のように多様な意見や感想を記述していた。

アメリカ人の心情が少しはわかるようになり、日本人に何が足りないのかを知った。

この授業を、自分を「国際化」するステップとしたい。

日米とも平和を願う気持ちは一つだとわかった。

異文化の表面的な違いに戸惑うばかりで、本当は奥深い所で共感し合えるものがあるということと、それを自分が知らず、また知ろうと努力していなかったということ。

授業を通して、自分の視野が広がり、頭も柔らかくなったような気がする。

Robとの文通を通して、いま自分たちがやらなくてはならないことを考えた。

鹿児島という日本の端にいるからといって、ボーッとしてはいられないことを学んだ。

アメリカ人の持つ発想や行動をもっと学びたい。

自分の意見をきちんと意志表示できるようになりたい。

アメリカに対して抱いていたイメージや考えが大きく変わった。行ってみたい。

単に英文を訳すということ以上のことを学んだ。

日本の近代史、特に戦争についての正しい認識を持つべきだとわかった。

真珠湾攻撃に対する日米の認識の違いを学んだ。

英字新聞を読むのは初めてで大変だったが、とても嬉しかった。

優しさ、人への思いやりやあたたかさを学んだので、人生に生かしたい。

世界がまだ自分の知らないことだらけだと感じた。これから学びたい。

*We Are the World*のビデオで、阪神大震災で自分が何ができるか考えさせられた。

一つの問題について、日本人の一人としてどう考えるかということを考えさせられた。

違い異国で戦っている服部夫妻の記事などは、最近情熱不足の自分への刺激になった。

授業やRobさんとの文通を通して、国際交流の仕方やマナーを学んだと思う。

英語を単位を取るだけのものではなく、書き、読み、話す言葉として学べた。

日本の歴史、日米関係、考えることを学んだと思う。

現実を現実として受けとめる勇気が必要だと思った。

Robさんが鹿児島に来て学んだ分だけ自分も学んだ気がする。

4. 1995年度1学期の授業展開(少人数教育となり、約30名の2クラス)

5月中旬、テキスト第4章の「史料館」(1972年開館で、戦争末期鹿屋航空基地から発進した特攻隊445機・826名の遺品を展示)を読むにあたり、太平洋戦争中、米国全土の強制収容所から志願した日系アメリカ人兵士を描いた作品をビデオで見せた。また、真珠湾攻撃を生々しく伝える1941年12月7日付の新聞、「Honolulu Star-Bulletin 1st Extra」を回覧し、爆撃直後のハワイの充実した危機管理体制報道にも注意を促した。第4章終了後、既述のRobの手紙の中で〈真珠湾〉対〈原爆〉の項を読み、その後ソロモン諸島からの留学生を含む55名の学生に、簡単なコメントを日本語で書かせた。以下はその抜粋である。

日本の降伏が遅かったし、原爆投下は気にしないが、今の経済問題を解決してほしい。自分の二人の祖父も戦争で死んだ。戦争は絶対あってはならない。自分より年下の特攻隊の若者は、国に命を捧げたのではなく、国に命を奪われたのだ。広島出身だが原爆は気にしない。アジア諸国に謝らない日本に米国は謝罪の必要ない。今まで学んだ歴史は日本中心だったので、ビデオや文通で米国の見方も学べて嬉しい。米国は原爆無しに日本を降伏できたが、自国の破壊力を示しソ連を牽制しようとした。今まで戦争は過去のことで自分には無関係と思っていたが、今からは真剣に考えたい。叔母が、戦争中日本の暗号解読に従事していた人と結婚し、米国にいて、アメリカ人のいともいる。植民地の国々での日本の残虐行為に対して、どう償ったらよいだろう。米国は日本の真珠湾攻撃を察知していたが、日本をずるい国と思わせようと仕組んだ。戦後50年。もっと本当のことを知りたい。“知っている人”は若い世代に伝えるべきだ。米国では、両国民の命を救うために原爆を投下したと習っていることを初めて知った。長崎出身で、母は被爆者だ。戦後50年に20才になる今年、戦争について深く考えたい。沖縄出身で、ひめゆりの塔や米軍基地など戦争は身近だ。大事なものは今後の協力だ。英語学習は文法や単語の暗記と思っていた自分が恥ずかしい。もっと考えていきたい。太平洋戦争は日本の一部の軍人や役人の考えで、「アジア解放」は単に言い訳だ。祖父母は長崎出身で、父は原爆投下直後生まれた。実家には今でも被爆者通知が来る。

5. Robの「戦後50年」

6月中旬(1学期末)、全学生のコメントと前述の1994年度末のRob宛の学生の手紙のうち4通の全英訳をシアトルのRobに送付した。折り返し、6月17日付の3ページの返信が届いた。Robは、「思慮深い意見に感心した。全員への回答は不可能なので、関心の高い話題に絞りたい。でも、注意して欲しいのは、僕は英語教師に過ぎず、歴史家でもないし、僕の見解に異を唱えるアメリカ人は多い。君たちが米国全般の気持ちをつかみみただけなら、もっと多くのアメリカ人と話す必要があると思う」と書き出していた。以下は、自分の論点を過去と現在に大別し、更に細目に分類したRobの手紙の構成全容とその見解の一部(*)である。

WORLD WAR II (A.K.A. THE WAR IN THE PACIFIC)

Pearl Harbor

1. Did the American government know about the attack beforehand?

Did they allow the US Pacific Fleet to be attacked in order to have an excuse to enter the war?

* "I don't know. However, there are historians who say yes, that Roosevelt, who was opposed by a very powerful isolationist movement in the US at that time, purposefully hid information from Pacific Fleet Headquarters.

Another group of historians believe that the Pearl Harbor attack really was a surprise attack for the Americans.(中略) Some Americans at that time were very overconfident, kind of like 600-pound Konishiki before his first loss to 215-pound Mainoumi."

Hiroshima and Nagasaki

Why did the Americans drop the bomb on Japan?

9月16日(土) 実践報告第7室(722)

Was it:

1. inspired by racial prejudice?
2. to impress Stalin, who had been reluctant to shift troops from Europe to the Soviet Far East to fight the Japanese?
3. to end the war quickly and, in the long run, save lives?

* "I'd guess nos, 2 & 3.(中略)I do know that the mayor of Nagasaki was in the news recently, denouncing Mr.Clinton's justification of Mr. Truman's decision to drop the bomb.(中略)I do wish that the US Postal Service had not made plans to commemorate the A-Bomb droppings with a stamp.(攻略)"

How did the Japanese leaders at that time expect to beat the US in the war?

"Maybe they thought that Yamato damashii would prevail, that Americans were powerful, but lazy and morally weak.(後略)"

Did the US recruit Jewish scientists from Europe to work on the atom bomb?

* "(前略)I think that most of the Jews that emigrated to the US at time (including Nixon's Secretary of State Henry Kissinger) came over before scientists knew that an atomic bomb was feasible.(後略)"

THE CURRENT TRADE DISPUTE WITH JAPAN

Is the Japanese market closed to American products?

Are American products simply inferior to Japanese products?

Is America simply a bully in international trade?

* "Everything else being equal, I think the Japanese market is usually harder to break into than the American market in most cases. Why?

- 1.Many Americans will make buying decisions based on price, more than a product's reputation.(後略)
- 2.Japanese society is structured differently than American society. It's difficult, even for Japanese, to penetrate groups outside one's one circle in Japan. American society is more permeable, I think.
- 3.The bureaucrats in the Japanese ministries are very strong, stronger than their American counterparts.(後略)"

最後に、"Ms. Miyashita is doing you a favor in making you think about these issues. It may seem like a pain now, but in the future, I think that you'll thank her. Learning to express your opinions clearly is an important skill, even if you yield to a group consensus in the end."と述べ、"By the way, Mr. Nomo of the Los Angeles Dodgers seems to be doing ok. Lots of strikeouts."と結んでいた。

6. 学生たちの「戦後50年」

上記の返信は、1学期定期試験(6月26日)時に宿題として配布した。その出題問題の一つ、「日系米兵」か「戦後50年」に関して感想を述べよ、に対する学生の意見を一部紹介する。

「戦後50年」沖縄の戦争は終わらない。問題解決なしに50年経過した事を恥じて欲しい。大人は、「戦争は二度としてはならない」と言うが、日常生活ではお金のことで頭はいっぱいで人間同士の信頼関係など不必要に思える。戦争をいつも心の中に置くべきだ。必要なのは自分達が今をしっかりと生きる事。戦争を道具にしてはいけない事。何が必要か考える事。何も考えない人が上の方にいるから、振り回される多くの人が困るのだ。社会は戦後と言ってるが、戦争の傷に苦しむ人は日本だけでなく朝鮮半島や中国にも大勢いる。あるTV番組で、60歳前後の人より20歳前後の若者の方が先の戦争について政府に謝罪を求めていた。政府は言い訳ばかりせず、事実は事実として認める勇気が必要。日本は世界初の平和憲法で戦争放棄を誓ったのだからもっと世界平和に貢献すべきだ。

国会決議の曖昧さを超越し、若者が描く鮮明な日本の自画像が瑞々しい。1995年夏、学生たちの「戦後50年」は、静かな祈りと共にグローバルな対話に彩られるような気がする。